



江刺金札米 特別栽培米栽培暦

〈減農薬・減化学肥料〉

令和8年産

目 標			1等米比率100%、整粒歩合80%以上、タンパク質含有率6.0%以下																								
種子及び対象品種			生育目標指標（目標収量540kg／10a）							江刺金札米の土づくりについて																	
1.種 子 全量種子更新 2.品 種 ひとめぼれ	栽植 密度 (株/坪)	中干し開始 m茎数 (本)	最高分げつ m茎数 (本)	m穂数 (本)	1穂初数 (粒)	登熟歩合	土づくりと基肥が 同時施用できる省力的な 土づくり			稲わら + 金札有機入り春専用レギュラー 施用量 80～100kg／10a 金札有機入り春専用一発 施用量 100～120kg／10a																	
		320～ 350	480～ 530	400～ 440	61～ 71	85～ 90%	稲わら鋤き込みと あわせた基本的な 土づくり（秋施用を推奨）			稲わら + 金札春一番（春施用）・秋一番（秋施用） 施用量 50kg／10a 金札フジクオー（秋施用） 施用量 45kg／10a																	
		1株あたり					堆肥施用とあわせた 土づくり			堆 肥 + 金札エネルギー 施用量 40kg／10a																	
		70	17	25			21																				
		60	18	28			23																				
		55	20	29			25																				
50	21	32	26																								
作業内容等	4 月		5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月									
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬						
生育ステージ	播種・育苗		田植え			有効分げつ期			無効分げつ期			幼穂形成期 減数分裂期			出穂期			登熟期			成熟期						
水 管 理	畦畔の整備・補修（環境保全）		水深6～10cm （低温から稲を守る）			3cm前後（生育促進）			中干し 溝切り			間断灌水 （徐々に深水）			15cm前後 （低温から幼穂を守る）			高温の場合は、地温を下げる水管理 （夜間かんがいや水の入替え頻度を増やす等）			開花期（浅水）			間断灌水（徐々に落水期間を長く）			
地域一斉草刈り	カメムシふ化盛期前後（5月中下旬）					イネ科雑草が出穂する前にこまめに実施					水稻の出穂10～15日前					本田にカメムシを追い込む可能性があるため控える											
作 業 内 容	播 種		代かき	田植え		中干し・溝切り			追肥						落 水 （出穂30～ 40日後）			収 穫			秋 耕						
	基肥散布・耕起																	土づくり資材散布									
農薬防除体系	〇作土深は15cm確保		〇高温障害回避のため 早期移植は控える			〇目標穂数の8割を確 保したら（目安は田 植え後30日）、期間 は14日間程度実施										〇カメムシ防除は畦畔 や周辺の除草を徹底 し、穂揃いから1週 間後までに実施			〇積算気温900～ 1,050℃を目安に 籾の黄化割合で判 断し、適期収穫			〇稲わらの分解促進 のためできるだけ 早い時期に耕起					
	〔種子消毒〕 消毒済み種子を配布		〔箱施用剤〕 〔初中期一発除草剤〕			〔中期除草剤〕					〔いもち病予防剤〕					〔カメムシ防除剤〕 ※1回防除											

肥 培 管 理			雑 草 防 除					病 害 虫 防 除					収 穫 ・ 乾 燥				
1.施 肥			1.耕種的防除					1.耕種的防除					1.適期刈り取りの励行				
基 肥	肥 料 名	施用量 (窒素成分量) kg／10a	〇畦畔整備・補修による農薬等の流出防止。 〇代かき～田植えまでの日数は4日以内とする。					〇カビ・細菌病 出芽温度を28～30℃を目安にする。 〇いもち病：取置き苗除去の徹底。 〇カメムシ対策 ①越冬世代幼虫密度低減のため、6月上旬ま でに畦畔草刈りをする。 ②水田雑草のノビエ・シズイ・ホタルイ類の 防除を徹底する。 ③水稻の出穂2週間前までに畦畔雑草及び牧 草の刈り取りを行う。					〇バインダー刈り 適期は80～90%が黄化、または穂軸の 1／3が黄化。 〇コンバイン刈り 籾の85%以上が黄化。 ★高水分状態（降雨直後、降水中）での収穫は 極力避ける。 ★刈り取り晩限はバインダー、コンバインと もに、出穂後積算平均気温で1,050℃を 目安にする。				
	新・金札ひとめぼれ	30 (3.0)	2.薬剤防除					2.薬剤防除					2.乾 燥				
	金札有機入り ひとめぼれ	40～60 (4.0～6.0※)	各剤とも使用上の注意を守り、適期散布しましょう。					〇種子伝染性病害防除 薬剤名:テクリードCフロアブル（種子消毒済） 浸種は水温12～15℃、期間は7～10日、 催芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。					〇自然乾燥 収穫後直ちに棒掛けまたは、はせ掛けし品 質保持のため、2週間から20日間を目安 に乾燥する。乾燥不十分の時は機械乾燥で 仕上げる。				
	金札有機入り 春専用レギュラー	80～100 (4.8～6.0※)	薬 剤 名 散 布 時 期 散布方法					〇葉いもち防除 薬剤名：Dr. オリゼ箱粒剤 緑化期～移植当日（散布後十分に散水）					〇機械乾燥 収穫後は、直ちに乾燥施設に搬入する。二段 乾燥を行い、乾燥中の籾水分の均一化、過 乾燥の防止、胴割れ粒の混入防止に努める。				
	有機プレーパー ペースト734	40～60 (2.8～4.2※)	初 中 期	ウルティモZ 1キロ粒剤	移植時～ノビエ3.5葉期	温水散布 ※5～6cm の水深とし 1週間は止 水管理		〇穂いもち防除 薬剤名：コラトップ（予防剤） 出穂30～5日前、温水散布 例年いもち病が発生しやすい圃場は必ず散布 しましょう。					3.調 製				
	コーペースト 222P	25 (3.0)	発 剤	ウルティモZ ジャンボ	移植後5日～ノビエ3葉期			〇カメムシ防除……キラップ（1回防除） 発生源である本田内の雑草をなくし、出穂10 日前の水田畦畔及び周辺の草刈りとあわせて の薬剤防除が効果的です。					篩目は1.9mmを使用。整粒歩合80%以上を 目標。				
追 肥	金札追肥	栄養診断による追肥 9～10 (0.9～1.0)	薬 剤 名 散 布 時 期 対象雑草 散布方法					剤 型 散布適期									
	金札有機入り ひとめぼれ一発	50～70 (5.0～7.0※)	1 （右記3種類 の中から選 択して散布）	バサグラン 粒剤	移植後15～55日	ホタルイ クログワイ オモダカ 等	落水散布 ※散布後最 低3日間は 止水管理	粉剤、フロアブル 穂揃い期～穂揃い1週間後まで									
基 肥 一 発 型	金札有機入り ひとめぼれ一発	100～120 (6.0～7.2※)		バサグラン 液剤	移植後15～55日	ノビエ	温水散布 ※5cm程度	粉剤 出穂10日前～出穂期									
	金札有機入り 春専用一発	100～120 (6.0～7.2※)		クリン チャー 1キロ粒剤	1kg散布： 移植後7日～ノビエ4葉 1.5kg散布： 移植後25日～ノビエ5葉期 （但し収穫30日前まで）												
				クリン チャー ジャンボ	小包装20個（1kg） 散布：移植後7日～ノビエ4葉期 小包装30個（1.5kg） 散布：移植後25日～ノビエ5葉期 （但し収穫30日前まで）												
※窒素成分のうち50%の有機態窒素を含む。								クリン チャー EW液剤									
●堆厩肥を1.5t／10a以上投入する 場合、堆肥1t当たり基肥窒素を 1kg程度減肥すること。								ロイヤント 乳剤									
●食味の低下を防ぐため、減数分裂 期後の追肥はしない。								移植後20日～ ノビエ5葉期									

農薬を散布するときは、これまで以上に注意を!!

農薬の使用方法を守り、散布履歴の記帳を徹底する

農薬の使用前には、使ってよい作物や使用量、濃度、使用
時期、総使用回数などを農薬ラベルで確認し、これらを守る
ことが基本です。

散布後には、使用した農薬名や散布した量などを記帳して
おきます。記帳することで成分ごとの使用回数や安全日数の
確認が容易になり、また、使用基準を守っているかの証明に
もなります。





江刺金札米 特別栽培米栽培暦

令和8年産（品種切替用）

〈減農薬・減化学肥料〉

目 標			1等米比率100%、整粒歩合80%以上、タンパク質含有率6.0%以下																												
種子及び対象品種			生育目標指標（目標収量540kg／10a）							江刺金札米の土づくりについて																					
1.種 子 全量種子更新	2.品 種 銀河のしずく	栽植 密度 (株/坪)	中干し開始 m茎数 (本)	最高分げつ m茎数 (本)	m穂数 (本)	1穂粒数 (粒)	登熟歩合	土づくりと基肥が 同時施用できる省力的な 土づくり	稲わら + 金札有機入り春専用レギュラー 施用量 80～100kg／10a 金札有機入り春専用一発 施用量 100～120kg／10a																						
			310～ 345	470～ 515	390～ 430																										
			1株あたり																												
			70	16	24	20	62～ 70		90%	稲わら + 金札春一番（春施用）・秋一番（秋施用） 施用量 50kg／10a 金札フジクオー（秋施用） 施用量 45kg／10a																					
60	19	28	24						堆肥施用とあわせた 土づくり 堆 肥 + 金札エネルギー 施用量 40kg／10a																						
作業内容等	4 月		5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月													
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬										
生育ステージ	播種・育苗		田植え			有効分げつ期			無効分げつ期			幼穂形成期 減数分裂期			出穂期 登熟期			成熟期													
水 管 理	畦畔の整備・補修（環境保全）		水深6～10cm (低温から稲を守る)			3cm前後（生育促進）			中干し 溝切り			間断灌水 (徐々に深水)			15cm前後 (低温から幼穂を守る)			高温の場合は、地温を下げる水管理をしましょう (夜間かんがいや水の入替え頻度を増やす 等)			開花期（浅水） 間断灌水（徐々に落水期間を長く）										
地域一斉草刈り	カメムシふ化盛期前後（5月中下旬）					イネ科雑草が出穂する前にこまめに実施					水稻の出穂10～15日前					本田にカメムシを追い込む可能性があるため控える															
作 業 内 容	播 種		代かき	田植え			中干し・溝切り					追肥					落 水 (出穂30日後)					収 穫					秋 耕				
	基肥散布・耕起			・作土深は15cm確保					・高温障害回避のため 早期移植は控える					・目標穂数の8割を確 保したら（目安は田 植え後30日）、期間 は14日間程度実施					・カメムシ防除は畦畔 や周辺の除草を徹底 し、穂揃いから1週 間後までに実施					・積算気温950～ 1,050℃を目安に 籾の黄化割合で判 断し、適期収穫					・稲わらの分解促進 のためできるだけ 早い時期に耕起		
農薬防除体系	〔種子消毒〕 浸種の最終日 24時間浸漬		〔箱施用剤〕 〔初期除草剤〕 田植え直後 〔初中期一発除草剤〕 初期剤散布 10～20日後			〔中期除草剤〕					〔いもち病予防剤〕 葉いもちが発生しなかつた 場合は無防除可能					〔カメムシ防除剤〕 ※1回防除															

肥 培 管 理			雑 草 防 除			病 害 虫 防 除			収 穫 ・ 乾 燥		
1.施 肥			1.耕種的防除			1.耕種的防除			1.適期刈り取りの励行		
	肥 料 名	施用量 (窒素成分量) kg／10a	○畦畔整備・補修による農薬等の流出防止。 ○代かき～田植えまでの日数は4日以内とする。			○カビ・細菌病 出芽温度を28～30℃を目安にする。 ○いもち病：取置き苗除去の徹底。 ○カメムシ対策 ①越冬世代幼虫密度低減のため、6月上旬ま でに畦畔草刈りをする。 ②水田雑草のノビエ・シズイ・ホタルイ類の 防除を徹底する。 ③水稻の出穂2週間前までに畦畔雑草及び牧 草の刈り取りを行う。			○バインダー刈り 適期は80～90%が黄化、または穂軸の 1／3が黄化。 ○コンバイン刈り 籾の85%以上が黄化。 ★高水分状態（降雨直後、降水中）での収穫は 極力避ける。 ★刈り取り晩限はバインダー、コンバインと もに、出穂後積算平均気温で1,050℃を 目安にする。		
基 肥	新・金札ひとめぼれ	30 (3.0)	2.薬剤防除			2.薬剤防除			2.乾 燥		
	金札有機入り ひとめぼれ	40～60 (4.0～6.0※)	各剤とも使用上の注意を守り、適期散布しましょう。			○種子伝染性病害防除 薬剤名:テクリードCフロアブル（種子消毒済） 浸種の最終日に24時間浸漬処理（200倍希釈） 浸種は水温12～15℃で期間は7～10日、 催芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。			○自然乾燥 収穫後直ちに棒掛けまたは、はせ掛けし品 質保持のため、2週間から20日間を目安 に乾燥する。乾燥不十分の時は機械乾燥で 仕上げる。		
	金札有機入り 春専用レギュラー	80～100 (4.8～6.0※)	薬 剤 名 散 布 時 期 散布方法			○葉いもち防除 薬剤名：Dr. オリゼ箱粒剤 緑化期～移植当日（散布後十分に散水）			○機械乾燥 収穫後は、直ちに乾燥施設に搬入する。二段 乾燥を行い、乾燥中の籾水分の均一化、過 乾燥の防止、胴割れ粒の混入防止に努める。		
	有機フレーバー ペースト734	40～60 (2.8～4.2※)	初期剤			○穂いもち防除 薬剤名：コラトップ（予防剤） 出穂30～5日前、湛水散布 葉いもちの発生がない場合は省略可能。			3.調 製		
肥	コーベペースト 222P	25 (3.0)	初中期一発型			○カメムシ防除……キラップ（1回防除） 発生源である本田内の雑草をなくし、出穂10 日前の水田畦畔及び周辺の草刈りとあわせて の薬剤防除が効果的です。			篩目は1.9mmを使用。整粒歩合80%以上を 目標。		
	追肥	金札追肥	栄養診断による追肥 9～10 (0.9～1.0)	1 (右記3種類 の中から選 択して散布)			剤 型 散布適期				
基 肥 一 発 型	金札有機入り ひとめぼれ一発	50～70 (5.0～7.0※)	エリジャン乳剤・ ジャンボ			粉剤、フロアブル					
	金札有機入り 春専用一発	100～120 (6.0～7.2※)	ソルネット 1キロ粒剤			粒剤					
※窒素成分のうち50%の有機態窒素を含む。			カウンスルコンプリート 1キロ粒剤			穂揃い期～穂揃い1週間後まで					
●堆厩肥を1.5t／10a以上投入する 場合、堆肥1t当たり基肥窒素を 1kg程度減肥すること。			カウンスルコンプリート フロアブル								
●食味の低下を防ぐため、減数分裂 期後の追肥はしない。			カウンスルコンプリート ジャンボ								
			バサグラン 液剤								
			クリン チャー 1キロ粒剤								
			クリン チャー ジャンボ								
			クリン チャー EW液剤								
			ロイアント 乳剤								

農薬を散布するときは、これまで以上に注意を!!

農薬の使用方法を守り、散布履歴の記帳を徹底する



農薬の使用前には、使ってよい作物や使用量、濃度、使用
時期、総使用回数などを農薬ラベルで確認し、これらを守る
ことが基本です。
散布後には、使用した農薬名や散布した量などを記帳して
おきます。記帳することで成分ごとの使用回数や安全日数の
確認が容易になり、また、使用基準を守っているかの証明に
もなります。

